



利根中央病院だより

第45号
2017年 秋号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL: 0278-22-4321 (代表)
FAX: 0278-22-4393
URL: <http://www.tonehoken.or.jp/>

冠動脈CTを用いた狭心症診療と心臓リハビリテーションの紹介



循環器内科部長 近藤 誠

冠動脈CTを用いた狭心症診療

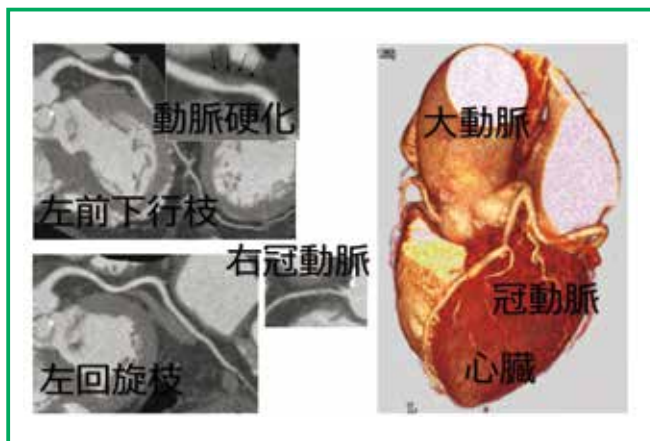
心臓は拍動しているためCTでの撮影は困難だと言われていましたが、高速撮影、高分解能撮影が可能なMulti-Slice Helical CTが登場し、冠動脈の描出が可能となりました。当院でも新病院への移転と同時に80列CTを導入し、外来検査として冠動脈CTを行なっています。

冠動脈CTでは、非侵襲的に冠動脈狭窄を評価でき、また血管壁の石灰化や動脈硬化性プラークを観察することが可能です。冠動脈CTは、急性心筋梗塞などの急性冠症候群では適応になりませんが、外来受診が可能な狭心症患者様には小さな負担で多くのことが判定できる有用性の高い検査だと考えられます。

心臓リハビリテーション (心リハ)

心臓リハとは、①虚血、心機能低下、安静による運動耐容能の低下の是正、およびうつや不安の是正による早期社会復帰、②冠危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）の是正と二次予防、③QOL (Quality of Life) の向上、を目的とし、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士などが連携して患者様と関わっていくものです。対象疾患は、虚血性心疾患、慢性心不全、心大血管術後、閉塞性動脈硬化症で、心肺運動負荷検査による適切な運動強度の設定や、監視下運動療法の継続、患者指導などを行います。

現在当院では、多職種で心リハチームを立ち上げ、H30年1月から心リハが提供できるよう準備を進めています。



認知症ケアチーム

認知症看護認定看護師 石原千恵子



人口の高齢化に伴い認知症高齢者の数が増大しています。厚生労働省は、認知症高齢者の数が2025（平成37）年には700万人を超えると発表し、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われています。

群馬県の高齢者は、平成37年には約58万2千人、このうち認知症高齢者は、約7万4千人になると推計

されています。

平成28（2016）年度診療報酬改定により「認知症ケア加算」が新設されました。当院では、平成29（2017）年4月から認知症ケア加算1の導入を開始しました。それに伴い認知症ケアチームを組み活動を行っています。当院の認知症ケアチームの活動は、毎週金曜日に医師、看護師、社会福祉士、病棟看護師、薬剤師、リハビリ、管理栄養士と一緒に専門性を活かし、患者様それぞれの問題に応じ入院生活が過ごせるよう話し合いを行っています。

高齢の患者様や認知症患者様は、入院による環境の変化への適応が難しく、入院を契機に物忘れや意欲の低下、認知症状の悪化を招くことがあります。認知症ケアチームは、入院初期から、環境調整やコミュニケーションの方法、日常生活動作について病棟看護師や多職種と検討し、安心できる環境で適切な治療を受けられるようにサポートしています。



国際HPHカンファレンス参加報告



臨床検査技師 荻野 亮子

4月12日から14日にオーストリアのウィーン大学で開催された第25回国際HPHカンファレンスに病理診断科の大野先生と検査室の荻野の2名で参加してきました。

HPHが最初に実践されたのがウィーンであり、25周年にふさわしい記念の地での開催となりました。

ポスターセッションでは大野先生が20年以上にわたりピロリ菌の除菌、ひいては胃がんの撲滅に取り組んだ結果をまとめた「ピロリ菌の撲滅推進が高齢化社会においても胃がん予防に良い影響を及ぼす」を発表し、同じアジア圏の中国・韓国・台湾の参加者から強い関心を寄せていただきました。

全体のテーマとして「ヘルスプロモーションに取り組むヘルスケアの方向性」をメインに据え、「過去の実績を称え未来への課題を明確にする」「持続可能な開発目標（SDGs）を達成するためヘルスプロモーションに取り組むヘルスケアの果たす役割」「難

民と移民をエンパワーメントし健康ニーズに応えるためにヘルスケアを改革する」「気候変動を緩和し適応するためのヘルスケアの貢献」「ヘルスサービスと制度の方向転換」の5つをサブテーマとして討論がなされました。

世界情勢が急速に変化している現在、世界的に医療だけでなくヘルスプロモーションのあり方が問われており、その対策の主軸として取り上げられたのは国連が推進する「持続可能な開発目標（SDGs）」でした。

SDGsはあらゆる形態の貧困の撲滅を最終的な目標に位置付けており、健康の社会的決定要因（SDH）と重なるものも多く、今後のヘルスプロモーションにおいても重要であると感じられました。

また市内の医療機関が老朽化に合わせ合併・新築移転するとのことで、建築途中の病院を見学してきました。

「来たくなるような場所」を目指したというだけあり、病院とは思えないくらい開放的でホテルのようなデザイン性の高い建物でした。

無人自動運搬システムや地熱を利用した空調など、ハイテクとエコの融合した「新しい病院」の出来てゆく過程は大いに参考になりました。

美しい街並みとドナウ川を横目に駆け足の参加ではありましたが、群馬県初のHPH加盟施設として今回の参加を皮切りに地域に向けていろいろと発信してゆけたらと思います。



沼田利根医師会症例検討会

平成29年6月27日、利根中央病院研修室で沼田利根医師会症例検討会が行われ、医師会員の先生方9名、当院医師14名、研修医6名、コメディカル59名が参加しました。

1. 『医療過疎地域における専用装置を用いない持続的腎代替療法の経験』
腎臓内科医長 岡部 智史
2. 『アルコール性アシドーシスの診療の実際』
研修医 周佐 峻佑
3. 『ゴリラでもわかる性同一性障害』
産婦人科医長 三枝 敬仁

上記3つの症例が発表され、会場の先生方からも活発に質問をいただき有意義な時間となりました。



第5回きらめき祭

8月27日に第5回きらめき祭が開催されました。職員による出店やジャグリング、地域のコーラス団体やサイエンスショー、G-FIVEショーと当院



DMAT隊とのコラボなどあり、約2,000人の方に来場いただき大いに賑わいました。



きらめき トピックス

第1回夏休み子ども参観



日々子育てに奮闘している職員を応援する企画として「子ども参観」を開催しました。

職場訪問では、検査室で顕微鏡を覗いたり、回復期リハビリテーション病棟では患者さんとちぎり絵を作成したり、手術室での手洗いや、救急車のサイレンを鳴らしたり、たくさんの体験ができました。親が働く職場見学では「たいへんな仕事をしていてすごいな。私もお母さんみたいになりたい」と感想を寄せてくれました。

ビアパーティーで英気養う



毎年恒例のビアパーティーを開催し、300人を超える職員関係者が参加しました。今年は医科研修医の余興で会場は大盛り上がり！緊張感の続く業務の疲れも吹き飛び、各職場の活力と英気を養う交流会となりました！